

建機に関わる現地人材育成

コマツ常務執行役員・建機マーケティング本部長

柳沢是清
やなぎさわ これきよ



コマツのアフリカでのオペレーションは、1960年代のODA案件へ商社と協力して対応していた胎動期を経て、1970年南アフリカのヨハネスブルク事務所開設から始まり、以来、アフリカのインフラ開発へ貢献するだけでなくアフリカの人たちが自国を発展させる内発的・持続的発展への貢献も心掛けてきた。長く内戦の続いたアンゴラでは、2009年から8年間、ブルドーザーを改造した対地雷除去機と建設機械を無償で提供し、

外務省から支援を受けるNPOのJMAS(日本地雷処理を支援する会)や日本商社とともに、地雷除去を通じてコミュニティ全体を

復興する活動を支援した。また、建設機械・鉱山機械は、アフリカの過酷な環境、厳しい稼働状況で使用されるため、販売後も保守メンテナンスや正しく使用するためのオペレーター教育も重要である。そういうこともあり、コマツがアフリカで取り組んできた人材育成の事例を紹介する。

日本重機オペレーター専門学校 JHEOS(リベリア)

若者の3分の1が職に就けないリベリアで、鉱山・建設・農業分野への若者の就職のための人材育成(重機オペレーター・サービス員

の育成)とその技能レベル向上を目的に、日本政府の無償資金援助とUNIDO(国際連合工業開発機関)の支援で、日本の名を冠した施設としてJHEOSは、2013年4月にリベリアの首都モンロビアの北東70kmのカタ市に設立された。オペレーター、サービス各360時間のトレーニングを終了した後、現場でのOJT研修を実施し、2018年までに延べ349人がプログラムを修了している。コマツは、UNIDOからの技術支援要請を受け、JHEOSインストラクターの訪日教育、南アフリカのコマツ現地法人での教育の実施、インストラクターの派遣、中型油

(注1) JHEOS: Japan Heavy Equipment Operators School



アンゴラの地雷除去活動



ウガンダMETRAC トレーニングセンター完成予想図

圧シヨベル、ミニシヨベル、カットモデル教

材(内部構造が見えるように切断されたもの)の寄贈等の支援を行った。その間、エボラ出血熱の流行でJHEOSが一時閉鎖となり、

JHEOSインストラクターが油圧シヨベルを操縦し、エボラ出血熱の療養施設の建設に携わるといふ思いがけない医療支援もあった。運営を含めたノウハウの伝承が完了したため、

2018年8月、現地の職業訓練学校へオペレーションを移管し、現在はリベリア独自で

プログラム運営がなされている。

ウガンダMETRAC トレーニングセンター

農業従事者が人口の80%を占める内陸国ウ

ガンダでは、農作物の迅速な流通とその周辺国を結ぶ道路は、ウガンダの経済発展に重要なインフラである。その道路を整備するため、ウガンダMOT(土木事業・運輸省)は、中国から2011年にブルドーザー184

台を、2012年にグレーダー112台を、

それぞれ1億ドルを超える融資を受けて購入したが、数年後にその多くが稼働しなくなるという大きな問題を抱えていた。原因は、建設機械の性能・品質の問題、建設機械の修理・

メンテナンスをするプロダクトサポートの問題もあったが、オペレーター教育がきちんとされておらず、基本動作として正しい操作・使用方法を身に付けていないため、それらに誤った操作が重なり、故障が多発していた。これに業を煮やしたウガンダMOTから、

コマツを含む日本製建設機械を購入すべく日本側へのコンタクトがあり、2015年に売買契約が締結された。コマツは、これらの状況を調査し、商談交渉中から現地代理店のサポート力の強化と対策を準備した。その1つがMOTウガンダ人指導員の訪日教育を含むオペレーター教育である。2018年の初めから約2年間、計22回ほぼ毎月顧客のMOT、コマツ、代理店の3者で定期ミーティングを開催した。その間、コマツ・代理店は、メーカーの責任を明確にし、着実にその責任を果たす一方、リベリアでのJHEOSを念頭にオペレータートレーニングの重要性をMOTへ訴え続けた。それに理解を示したウガ

ンダ政府は、トレーニングセンター設立を目的に、日本政府へ無償資金協力を要請した。2019年、日本政府UNIDO間の国際機関連携無償資金協力によって予算230万ドルのMETRAC^(注2)プロジェクトが開始された。METRACオペレータートレーニングセンターは、首都カンパラの北50kmのルウエロに2022年中の着工が予定されている。当時からMOWTは、コマツの支援を受け、ウガンダ各地で定期的にオペレータートレーニングを開催し、オペレーター全体のレベルアップに努めてきた。同センター完成後は、センターを中心に、ウガンダの持続的な成長に資する教育の提供と人材育成が可能となる。

TECHNICAL EDUCATION FOR COMMUNITIES (TEC)

コマツの長年のパートナーである米国カミンズ社(大手エンジンメーカー)は、社会貢献活動として、地域社会における人材育成支援に力を入れている。その中心的なプログラムが、地域技術教育である。互いのリソースやベストプラクティスを総合的に活用しながら、人材育成への支援を世界各国で展開している。TECは、機械工学や電気工学を専攻する

学生向けに、コマツ・カミンズ両社の知見を活かした専門的・実践的な職業訓練カリキュラムを提供する活動である。2018年5月、南アフリカのヨハネスブルクにあるセディベン技術大学で、3年間のカリキュラムがスタートした。同カリキュラムでは、エンジン等のメンテナンス技術や建設・鉱山機械の操作の講習やインターンシップを通じて学ぶ。TEC受講を通じて、学生は、実務に役立つ知識を身に付け、



TEC 授業

働きがいのある、より有利な条件で就職できるようになる。また長期的には、優れたエンジニアが増え、コマツの現地法人を含む地域企業で活躍することで、地域経済全体への貢献も期待できる。両社

の現地法人は、南アフリカのTEC立ち上げに主要な役割を果たし、専従インストラクターの派遣や、カットモデルなどの教材の提供、教育カリキュラム作成の支援などを担当し、開講後もプログラム全般にわたるきめ細かなサポートを継続している。受講者は、2022年で累計59人となった。

コマツ・デンロン コミュニティーセンター

コマツの顧客でもあるデンロン社は、南アフリカの南端、インド洋に面する世界的な観光地帯にあるブレッテンバーグ・ベイの地元建設業者である。近くには別荘が立ち並ぶ都市がある一方、ブレッテンバーグには黒人の貧困スラム街が広がっている。2007年からコマツとデンロン社は共同で、失業率の高い若手人材を対象に、就業に必要なスキルと一般教養を学ぶ機会を提供するコミュニティーセンターを開始した。その後、NQF(国家資格フレームワーク)レベル4の基礎的資質が得られるビジネスコースも用意され、コミュニティーセンターに通う生徒を送迎するバスを寄贈した。各コースの受講者は延べ1500人近くになっている。

(注2)METRAC : Mechanical Engineering Training and Advisory Centre